日伯新聞
伯國聖市マエストロ・カルヴァリオ街二九
ヴエルゲイロ街(二五八)
發行所 日伯新聞社
本紙定價 年六十$
外國郵税共 百廿$

Sr. Kobayashi Midori
R. Galvão Bueno, 407

再び麥と兵隊

腥風千里、河南大平原
宿敵索めて更に猛進
第五戰區今や完全に覆滅

（漢口十四日同盟）敵廿六個師混成二個旅を擊碎潰滅せしめ第五戰區を根底から覆滅し去つた我が精鋭各部隊は引續き敗殘部隊を索めて殲滅戰を展開してゐる、今や戰局は山岳重疊を極めた西大別の連山地帶より滿目茫々たる麥畑の續く南部河南の平原に移り、徐州會戰で相見えた宿敵李宗仁、湯恩伯を索めて思ひ出す『麥と兵隊』を現出してゐる、十二日より十三日に亘る敗敵集結據點西新集を中心とする戰況は左の如くである

一、最右翼の鈴木、青山兩部隊は十二日西新集に集結中の敗敵二千を擊碎同地を占領

一、澤山、松江田、金田、吉井、勝谷各部隊は十二日鈴木部隊と相前後して西新集に到着、直ちに北方に急進十三日午前西新集北方地區で敗走中の敵約五千を捕捉しこれを徹底的に潰滅せしめ、更に餘錬を轉じて同日午後には西新集南方波狀地帶に退路を斷たれ混亂中の約二千の敵集團を發見これを包圍猛攻を加へてゐる

一、川俣、加藤、愛口各部隊は十二日西新集南方十二キロの敵據點○○に據る敗敵を殲滅これを占領、引續き敵を急追中

一、塞陽附近より東進した山本部隊は十二日西新集西南廿キロの○○線を北方に向け敗走中の敵第百七十三、百九十八兩師に屬する約一千を潰亂せしめた

一、十三日午前西新集西北方廿キロ附近に進出した高橋部隊は折から北方に潰走中の廣西軍約五百と遭遇、激戰時余の後これを殲滅

一、空閑、近藤、山田、南部三浦、河原、林の諸部隊は十二日午後○○北方廿キロ附近で第百七十四、第百七十五、第百八十九各師に屬する約二千の敵集團を捕捉潰滅せしめた

一、佐久間、加藤の神速部隊は十二日西新集西北方卅五キロ河南の要衝○○縣城外周の陣地に據る約三千の敵を猛攻蹂躪して同城を占領引續き同地を基點にその快速を利して附近一帶の敗敵殲滅戰を展開中

皇軍宛ら電光石火
敗敵五千忽ち擊碎
輝く覆面鐵脚の兵團

【漢口十四日同盟】河南平原の奥深く進入その神速を利し敗敵を隨所に捕へて轉々たる戰果を擧げつゝある佐久間、加藤兩快速部隊が去る一日棗陽北方約五十キロの地點に於て中支戰線最初の壯絶なる乘馬集團襲撃を敢行、一擊に長駆を抜きはなち馬首を轉へて敵中に突入し約五千の敵大集團を忽ち馬蹄下に蹂躙し去つたと云ふ快報が十四日漢口に達し全軍を歓喜せしめてゐるがこの戰史に飾るべき快戰の戰況につき中支軍報道部から左の如く發表された

我覆面の鐵脚大兵團は軍主力の外側を遠く深く敵の通路たる河南の大平原に迂回突進し、敗走の敵を所在に捕捉急襲撃滅しあり、就中去る十一日の如きは午前八時頃退却中の敵第百八十師の三個團を發見するや追撃これを包圍し大兵團の壯烈果敢な乘馬襲撃を敢行全くこれを徹底的に潰滅せしめたり、河南の戰場は敵屍累々として凄然たり

網を逃れた敗殘軍
均川店で捕捉擊滅

【漢口十三日同盟】我包圍陣せる敵に對し京山方面より大回、船橋十數ケ所、河岸密集舟艇擊撃數ケ所約七百隻、洪山脈攻略地帶を北進中の我自動車約三百台を粉碎しこの擊撃によりて敵に與へた損害は推定二萬三千七百餘に上つてゐる

作戰僅かに旬日余
頑敵全く木ッ葉微塵
損害實に一万三千

【漢口十四日同盟】今次江北新鋭○○部隊は十二日午後隨西大別山系大洪山脈並に南部河南平原を舞台とする李宗仁湯恩伯麾下三十數個師の大包圍殲滅戰は作戰開始以來僅か十數日にして未曾有の戰果を收め、敵軍は今や全く支離滅裂となり甚だしきは一個師の大軍が僅か一千足らずに減ずる程の大損害を蒙つてゐるこの戰鬪に於て連日我が空軍各部隊は本月二日以來十三日迄にそれ〳〵十數回乃至廿數回に亘つて出動し信陽、雙河市、安陸地帶に地上部隊の完全包圍陣内に全く袋の鼠となり右往左往する敵大軍に巨彈を浴せ、或は機上掃射を試みり目醒ましい活躍を遂げた、行動開始以來の出動延機數は一千餘機、爆撃回數は二百數十回、投下爆撃彈二百數十噸に達し、敵主要據點の爆撃百數十ケ所、地上集結部隊三十數箇所、河岸密集舟艇擊撃數ケ所、約七百隻、

海の荒鷲颯爽亂舞
中南支に依然猛威
敵據點次々虱潰し

【上海十四日同盟】艦隊報道部發表によれば我海軍航空部隊は十三日中支方面で玉山飛行場を始め南昌附近支那街、岡上街、何林また揚子江岸彭澤、八彭澤の敵を襲撃多數の損害を與へたる外南支方面に於ても十二日瓊州を攻撃同地西北部の敗兵營陣地及び市内の敵據點を爆撃これを大破し全機無事歸還した、また海南島殘敵掃蕩中の我航空部隊は敵據點保亭縣を爆撃甚大なる損害を與へたり、一方海南島上陸部隊は十日陵水附近の敵を急襲多大の戰果を收む、更に來襲半島の敵を擊撃し、敵軍要據點漢市街を爆撃せり

【上海十五日同盟】艦隊報道部發表、中支方面に於いて昨十四日海軍航空部隊は三個所を攻撃何れも多大の戰果を收めたり

引續き汕頭を猛襲

【香港十四日同盟】ロイテル撫を來しつゝあり第十二師團軍事司令部所在地翁源（廣東省政府所在地）及び第四路軍司令部所在地守衛張發奎、韶關の兩地は共に緊張を示してゐる、なほ韶關よりの情報によれば日本軍は十日夜緊急會議を開き近き將來汕頭電によれば十四日午前我航空部隊は三度び汕頭市を空襲し、市内各所の軍事施設に命中彈を投じ大なる戰果を收めた

【香港十五日同盟】我空軍連日夜の汕頭、潮州、梅村その他廣東省南北各地敵軍事據點爆撃に最近この方面の支那軍は大動員の我軍事司令部所在地翁源（廣東省政府所在地）及び第四路軍司令部所在地守衛張發奎、韶關の兩地は共に緊張を示してゐる、なほ韶關よりの情報によれば日本軍は十日夜緊急會議を開き近き將來

今からでも遅くない
日支直接交渉せよ
新華日報再び警鐘

【香港十四日同盟】汪精衛機關紙新華日報は本日和局の危機と題し左の如く社説を掲げた

吾人は夙に日本に講じ得る和平の方法には二種あり、その一は日支直接交渉を主とするもので、その二は日英妥協を主とするもので、然も後者は前者に較べて中國にとつてはより受動的で決して有利でないことを指摘しておいた、吾人の主張に頭から反對した連中は國際的壓迫による日本との和平を期待してゐたが、計らずも國際調停は寧ろ日本との和平を遠ざけしめた、これ實に抗戰論者の重大誤謬である、更に最近の新聞報道を見るに東西呼應して日一日と接近つゝある、若し日支直接交渉を主とする和平であればそこには吾人の損失を轉回し得る餘地がある、然らずして最近傳へられる樣に和平が既に妥協せる媾和にあつてはその餘地が最早ない、これは中國にとつてより大なる禍である、現に抗戰論者諸君はそれを憂へて泣言を發してゐるではないか、然も憂慮すべき事情はなほこれだけに止まらない、第二次世界大戰は焦眉の間に迫つてゐる、第二次世界大戰が若し日支和平に先立つて勃發するならば日支戰爭は當然大戰の一部となる、かゝる場合事態は中國にとつて絶對に利を得る所がないと言ふことが出來る、こゝに於て吾は（一）重點を對日直接交渉に置くこと（二）出來るだけ速に和平することを提議する、本來吾人は日本が近衛聲明を發表した時期が和議に最もよい時期であることを建議した、なほ現在では既にその時期を逸した感はあるけれども、今からでも不straight遅くはない速に和を講じて第二次世界大戰勃發前に和局を實現せねばならぬ

日伯漫談

須田町人

よくあの人は顔に似合はない、隠し藝を持つてる、仲々隅におけんなんてえことを申しますが、こいつはどうも日本人だけのやうでしてねえ、西洋人にや隠し藝なんてえものはどめせん、悉くが表藝です、どうもあの隠し藝の起りといふ奴、何だかハツライが元のやうでしてなあ、昔【【【大名】】】が【【【酒盛】】】だん武骨一點張りのケライだと思つて居たのが、鮮かに舞ひの一さしもやつてのけ、殿様のお目に留つてそれから御寵愛を受ふすると云つたやうな工合で、町家においても歌の番頭の中から唄や踊りの隠し藝を持つた奴が、旦那から可愛がられると云つたやうな譯で隠し藝はたしかに一種のヘツライですなあ、日本人の宴會だの酒盛りだのといふのは、飲んで喰つてエンゼツを使つただけじや納らない、必ず何かドンチヤン騒ぎをやらねばならず、その時に隠し藝の一つも持つてれば、座客の意表に出てヤンヤと云はせることが出來るらしいです、ですからお役人でも場數を踏んだ人はそれ〳〵隠し藝を持つてましてなあ、今度の大使代や總領事さんの隠し藝は何だか存じませんが、あの御年輩ならキツと何か持つてらつしやるにきまつてまさあだが

【【【この隠し藝】】】といふ奴も御同様マカコベーリヨまでゝすなあ、これからの若い衆や第二世には隠し藝なんてケチな眞似はしもすまいが、またさせちやなりません、ことごとく表藝にするんですなあ、ピヤノが旨ひバイオリンが上手だと云ふのに何もこれを隠し藝の中へ入れるにや及びませんや

【【【義太夫】】】てカンタ ブラボだつて自信のある人は堂々と名乘つて出るのですなあ、なくも趣味をかくれてコソ〳〵やるなんて外國じや流行りませんや、弱さんあんた何かやるんだらふ、どうも樣子が貝のエンシヤーダ上りじやねえやうだ、エヽお察しの通り淨瑠璃を少しばかりやりますが、こないだ三勝半七の宗巖せき込みの場をやつてましたところ隣りの外人が喝いてましてねえ、コイタードあの人は腹が痛いとみえる盃ひやした、そりやそうだらふ、おまさんのその格好で腹を押へて宇鳴つてりやドーエ餘萬のパトリシオの中には若けえ時【【【相當】】】親不孝をした者も居ます、蒙國境ノモンハンに於ける外蒙兵の不法越境事件に絡いて十二日午前十時また外蒙兵境事件を重視し十三日電報を以てウラシバートルの外務政府チョイブルサン外相宛嚴重抗議を發した

性懲りなき外蒙軍
又も滿領に越境す
我軍の猛撃に忽ち敗走

【新京十四日同盟】十一日滿國境ノモンハンに於ける外蒙兵の不法越境事件に絡いて十二日午前十時また外蒙兵境事件を重視し十三日電報を以てウラシバートルの外務政府チョイブルサン外相宛嚴重抗議を發した

【新京十四日同盟】十一日滿國境ノモンハン西南方シンタイ附近に越境し來たり我軍の攻撃に遭ひ西方ハルハ河を渡河逃走した、その後十二日午後五時頃外蒙兵凡そ二百騎がバルシヤ河西岸地區に越境せる事實あり、滿洲國外務局ではこの調査なる越境事件を重視し十三日電報を以てウラシバートルの外務政府チョイブルサン外相宛嚴重抗議を發した

ソ聯の注意喚起
北樺太の利權問題
東郷大使モロトフ訪問

【モスクワ十四日同盟萩野發】東郷駐ソ大使は十四日午後八時外務人民委員部にモロトフ新外務人民委員を訪問し九時まで約一時間に亘つて初會見をしたが午後一時五十二分に香港に安着した

【モスクワ十四日同盟萩野發】を行つた、席上東郷大使は日ソ一般關係につき會談をなした後、北樺太の利權問題につきソヴエット側の注意を喚起した

敗戰のなすり合ひ
四月攻勢失敗の卷

【廣東十四日同盟】南支に於ける四月攻勢の失敗に對し各軍機は互ひにその責任のなすり合ひに波々としてゐるが、第四戰區司令長官張發奎は敗戰の原因は蔣と軍の間の軋轢に起因するとなし、薛介石に對し第四路軍總司令余漢謀の突破した倉林、吉田、長瀧、柴田、行方、矢村各部隊は引續き猛追中である

【廣東十四日同盟】我江北包圍殲滅戰の最右翼鈴木（貞）青山の各部隊は十二日河南省南部の敵軍事據點西新集の敵大集團を猛襲撃の後これを占領

本兼各職の解職を要求、このため最近余漢謀は廣東省東部に流れ、その後任として鎮廣西軍吳鎮嶠が任命されたと傳へられる、かくて南支に於ける余漢謀の勢力は事實上消滅に瀕しの狀態となつた

北部山西省
文警裡を猛爆

【〇〇基地十五日同盟】山口部隊の〇〇攻は十四日午前十時卅分山西省北部大營鎮南方六十五キロの文警裡附近一帶の敵に重爆撃を浴びせ多大の戰果を收めた

歸心矢の如し
ガブレンツ機
すでに香港着

【臺北十五日同盟】十五日午前十時卅四分臺北に安着したガブレンツ機は給油の上愈ふ間もなく十一時卅六分官民多數の歓送裡に臺北を出發香港に向つた

【香港十五日同盟】翼の日滿親善を果した獨乙のガブレンツ機は十五日午前四時三十五分福岡發同十時三十四分には早くも臺北着、給油後間もなく十一時三十六分臺北を出發、十一時三十分臺北に安着したが午後一時五十二分に香港に安着した

重慶空爆の妙技
第三國權益に損害なし

【香港十四日同盟】重慶來電によれば去る十二日の我が軍に對する重慶空襲は市内各所の軍事施設に致命的打撃を與へたが、而も第三國權益には何等の損害を與へなかつたとこの判明した

【香港十四日同盟】重慶來電損害の有無を調査のためベルギー代理公使と同行實地調査を行つたが何等被害なきことを確認し又近傍に於けるアメリカ人の事務所一ケ所の損傷も火災によるものなることゝ判明した

抗日テロを取締り
安居樂業の地域へ
我方、コロンス租界に要求

【廈門十五日同盟】内田廈門總領事は十四日午後二時半工部局參事官長モルス・ハンス氏に對し左の要旨の公文を手交した

コロンス共同租界治安は最近紊亂し日本人に對する暴行及び日本側と密接なる關係ある支那要人の暗殺など不祥事件の頻發は當方の遺憾とするところである、コロンス島は福建大陸に接近し抗日策謀の據點となり易きが故にこれ等の策謀行動を取締り以て世界各國人に對する安居樂業の地域たらしめ、併せて廈門と密着共存すべき地域たらしめるため貴工部局に對し左記三ケ條の要求を提出するものである

一、抗日排日の取締りを徹底的に實行すること

二、工部局長官、警視總監及び工部局秘書長を日本人としこれが職員もなるべく多く日本人を採用すること

三、台灣人に工部局參事會員の選擧權及び被選擧權を與へること

四、現在欠員中の支那人納稅者代表三名を至急補缺し參事會員に充員すること

五、日本總領事館警察は工部局警察と協力し排日抗日分子の捜査檢索を沈默せしめたり、更に午後右に對し貴工部局は愼重に考慮の上速かに回答を求む

コロンスを襲ふ

抗敵沈默

【廈門十五日同盟】十四日午前海の荒鷲は又もコロンス内潮對岸の敵陣を猛爆遂に敵を沈默せしめたり、更に午後に入院中の湯將儀暗殺犯人韓射藻も刺客に襲はれたが巧みに反撃して却つてこれを斃したが、これ等事件につき官邊では全く默殺して新聞も沈默を守つてゐるとの言はれる

曾仲鳴射殺犯人
重慶で晒し首
藍衣社一味の仕業

【香港十五日同盟】重慶よりの電報によれば數日前重慶郊外に一名の男が惨殺され晒し首にされたがこれは去る三月二十一日ハノイで曾仲鳴を暗殺した犯人の一人で陸某といふ同事件の裏面關係を暴露されることを恐れて監衣社一味が殺したものであると傳へられる、なほ目下重慶市立病院に入院中の湯將儀暗殺犯人韓射藻も刺客に襲はれたが巧みに反撃して却つてこれを斃したが、これ等事件もあつたが、これ等事件につき官邊では全く默殺して新聞も沈默を守つてゐるとの言はれる

首相陸相懇談

【東京十五日同盟】平沼首相は十五日午前官邸に板垣陸相の來邸を求め歐洲情勢に關し約一時間半に亘り重要協議を遂げた

佐藤軍醫少將

【新發田十五日同盟】陸軍醫少將佐藤林太郎氏は病氣中のところ十五日午後零時廿分新發田町の寓居で逝去した、享年五十八

献金の上前を掠む
呆れた名流夫人連
香港舞臺に此の醜狀

【香港十四日同盟】廣東陷落以來香港に流れ込んだ支那人遊離者の數は約五十萬と稱せられるが、この中には華僑富豪や官吏などの家族が多いのに目をつけた國府はこゝを抗日運動の一據點として國際宣傳戰に乘出す一方香港に居住する故孫文未亡人宋慶齢を會長にして宋美齢、何香凝等の支那人女學生を動員して街頭救國基金募集を行ひ、或は遊蕩男女を集めて假裝舞踏會を催すなど盛んに活躍して來た、然るに最近同會の會計係某が同會で募集する金品が仲介者のため次々に頭を跳ねられ實際に將兵の手に渡る時には原箱の僅か十分の一程度に減つてしまふといふ醜狀を暴露したゝめ、俄然一般傳戰に乘出す一方香港に居住する

伯棉の將來性

今年ほど伯棉が不安動搖を感じたことはあるまい、成る程昨年も伯棉は安値に呻吟したけれども、それはそれとなりに落着を示して移行した、それが今年は伯棉相場を一上一下させるような國際事情が次々に發生した、大體棉花のような國際商品は國際情勢に大きく影響支配されることは當然であるが、伯棉は比較的新興產業であり、米棉への依存性が強いからこの傾向は特に顯著だと云へよう、その點印棉の如く埃及棉の如く傳統に賴る譯に行かないのである、僅か數年前新進の意氣物凄く勃興した伯棉は一昨年あたりより漸く板に付いたかに見えたが、忽ち世界的棉花不安に直面するに至つたのは何ぞ因果なことであらう

今季サフラ初頭の伯棉弱含みは前年度の安値に祟られた伯棉界の弱氣を反映したゝめではあるが、その上伯棉の好顧客である日獨英等の諸國が微妙な國際政局の中心にあることも相當程度影響した模様である、實際最近の國際不安は伯棉の根底など一擧に覆へすかも知れないからである、かく弱氣材料の揃つた所へ、しかも伯棉の出廻り期を控へて現れたのが米棉ダンピング說である、玄人筋では之で伯棉も完全に行かれた形であると當初は思つたものである、米棉花政策の行詰りを直接一番大きく受けるのは外ならぬ伯棉であるからだ、所が過剩ストツクを拂つた米棉は完全な行詰りに逢着し乍らも思ひ切つた對策を講じ得ぬ中に、米棉打開政策のバンクヘッド案は遂に否決されてしまつたと傳へられる、一方日本を始め英獨等歐洲側は盛んに伯棉買付けを行ひ、サフラ當初に豫想された先弱を裏切つて最近の州棉など頗る强氣であると云はれる

万事塞翁が馬で棉花界のことなど全くお先眞つ暗であるが、これ等の事實から吾人の知り得ることはまだ〳〵伯棉の位置は頗る不安定だと云ふことであらう、それなら伯棉には全く將來性はないかと云へば、何人もそれを斷言する勇氣のある者はあるまい、伯棉がそれ自身若干の而して將來發展を豫想される國內消費を持つとは云へ、それ丈けで立ち得る譯はなく伯棉が海外輸出に最も大きく依存してゐることは云ふまでもあるまい

然らば伯棉將來の安危は全く海外市場に懸つてゐるが、それが米棉との關係その他の原因で現在の樣に不安では伯棉の動搖も致し方がないのである、エスタード紙社說の如き日本が事變を控へ乍ら、なほ第一流の綿布輸出國である點を强調、事變でも終熄すれば支那四億の民需もあり日本紡績業は素晴しい躍進をなすべく、自然伯棉需要の前途も益々好望である如く切りに日本市場をマークしてゐる、之はれぬ

獨英等の歐洲市場にしても伯棉をボイコットする如きことは出來ぬ、然しながら全體主義の線の平和政策に對し民主々義國家群は果して贊成するであらうか、吾々は疑念を持つ、こゝ數年間の歐洲の地圖は塗り替へられた、然しドイツもイタリーも日本も民主々義國家の領土も一兵卒も奪つてはゐないではないか、彼等は如何なる方法で現在の國家を築いたかを反省せよ、獨伊にビストルを射ち込んだベルサイユ體制は崩潰した、而して彼は必ず達成されるであらうと

對の結果も豫想されぬでないが、日本の伯棉需要が早急に減退し或ひは消失するような事態はきぬまでも、大體現狀維持の程度迄むのではなからうかとは尖程の情勢變化がない限り万起るまじく、結局伯棉は現在より大巾な飛躍は期待できぬ、伯棉をボイコットする如きこと

ムソリーニ首相の大演說

額面通りの獨伊實力
防共樞軸は鐵壁不動
勝手な民主國に痛憤の矢

（ローマ十五日同盟）ムソリーニ首相は十四日トリノに於て歐洲政局の危機に對處するイタリー政府の確固たる態度を闡明する演說を行つたが、ポーランド及び佛伊問題に次いで獨伊樞軸の鐵壁不動の陣を謳歌した後、獨伊兩國に對する經濟戰爭は既に開始されてゐるが兩國は斷じて包圍政策の前に屈するものではないと喝破した、演說要旨左の通り

イタリー國民は進み、而して建設し、戰に勝つた、アフリカ經濟封鎖と戰ひ、スペインでは デモクラシーとボルシエヴズムの聯合軍と戰ひこれに勝つた、アルバニアの征服はイタリーの强化を意味する、イタリーの進みつゝあるのは平和へか又は戰爭へか、客觀的情勢よりすれば吾々は戰爭を正義づけることが出來ぬ、かゝる戰爭が一度歐洲に起れば忽ち世界戰爭に擴大するであらう、これが今日の不安定な政情に對して嚴しき現實を注視する獨伊兩國の現在の心境である、こゝ數年續いた獨伊兩國の工作は今後も擴ますます進展するであらう、獨伊樞軸は最近締結された獨伊政治軍事同盟によりゝ愈よ不可分のものとなつたが右協定は今月中にベルリンで調印される筈である、ファッシスト黨の主義並びに政綱は不動且つ不變である、吾々凡ゆる分野に於ける我國力の强化を意味する、イタリーの直路邁進するであらう、デモクラシーの辨證學者は來りて吾等の心境を檢討せよ、彼等はその國情が破局に瀕してゐるから平和を求めると言つてゐるが、イタリーはその儘の事情をこゝ十七年間經驗して來たものだ、又フランスの勢力はイタリーに對し毒牙を磨きつゝある、然しこの佛伊國境のピエモンテ地方は斷じて彼等の蹂躪を甘受するものではない、然しながら全體主義の線の平和政策に對し民主々義國家群は果して贊成するであらうか、吾々は疑念を持つ、こゝ數年間の歐洲の地圖は塗り替へられた、然しドイツもイタリーも日本も民主々義國家の領土も一兵卒も奪つてはゐないではないか、彼等は如何なる方法で現在の國家を築いたかを反省せよ、獨伊にビストルを射ち込んだベルサイユ體制は崩潰した、而して彼

早くも對戰用意
ヒ總統佛國境へ
構築中の防備施設視察

【アーヘン（獨佛國境）十四日同盟】ヒトラー總統は十四日早朝ミュンヘンより獨佛國境近くのアーヘンに到着、國境地區の施設及び構築中防備の施設を視察した

紡聯は國家の一翼
愼重期し大陸進出
津田會長、記者團に語る

【東京十五日同盟】目下上京中の鐘紡社長津田信吾氏は十五日紡聯會長就任後始めて記者團と會見左の如き談話を試みたが、就中紡機の大陸移轉問題は今後の紡聯の活動方向を示すものとして注目される

日本の經濟は目下大きな變革期に當面してゐる、好むと好まざるとによらず今後重工業中心に進むべき方向にあることは勿論である、併し我國工業の最大部門たる纖維工業の存在を無視することは出來ない、國家としては飽くまで既存のこの勢力を活用すべきであつて現に貿易會社のストツクが事變經濟を賄ふに偉大な力を致したことを忘れてはならぬ、併し乍ら一般物價高につれて輕工業はコスト高を免れず從つて輸出の促進も期待薄の事情にある、この時に際し原始產業たる紡績の勞働力を豊富にして且つ低廉なる大陸に今後進出すべきであつてその意味から紡機大陸移轉も國策的に考へねばならぬ、右に關しては今日未だ反對論も相當あるが實際問題としてこの際國策的見地から紡機の大陸移轉は是非實行されなければならぬ、紡聯自體としても大乘的見地から弱小會社の立場も考へ移轉につき適當に善處しなければならぬと思つてゐる、何れにせよ今後の紡機は國家の一翼として大局的見地に起ち事を處せねばならぬ、既に現在は小さな問題に拘泥し自社のみの利益を主張すべきときではない、一致團結戰時國策遂行に邁進しなければならぬ、滿場一致會長に選任せられた自分は會員の團結をバツクにして力を借りたいと思つてゐる

防共陣を更に强化
日獨伊の相互援助
外電の傳へるデマか

【東京十三日UP】日本は獨伊と相互援助條約締結の交渉中と傳へられる、右相互援助條約は防共協定を更に强化したもので、日獨伊三國は必要な場合飛行機、軍需品その他工業品を相互に供給し合ふと云ふのが本筋で、目下日本は獨伊兩國政府と折衝中であるこれは獨伊兩國が日本に提示した英佛軍事同盟に對抗する日獨伊軍事同盟と代り得るもので當局は全然否定してゐるが、消息通は內容を大體次の三點によるものと見てゐる

一、イタリー製最新優秀機の供給

二、ドイツ飛行機製作所の使用權賦與

三、ドイツ飛行機製作所の使用權賦與

右要求と交換的に日本は獨伊兩國に對し支那に於ける或程度の權益を與へる、然し現在のところこの交渉は大體次の如き點で行惱みの情態にある

一、イタリーは最新型優秀機を日本に賣ることに躊躇し且支拂は現金を要求してゐること

二、ドイツは日本に飛行機製作所の使用權を與へる用意はあるが、日本の要求する最新完備のものではないこと

伊國接近の具體策
夜は歡迎音樂會に臨席

【フイレンツエ十四日同盟】ローマ訪問を終へたユーゴスラビヤ攝政パウル殿下並びに同妃オルガ殿下はチアノ外相並びにマルコヴイツチユーゴ外相らを從へ十四日午後中部イタリーの古都フイレンツエに到着、市內御縱覽の後同夜はフイレンツエ市主催の歡迎音樂會に臨席された、一方チアノ、マルコヴツチ伊ユ兩外相はフイレンツエのゴルフクラブに於いてクリス駐チ伊ユーゴ公使、インデリ駐ユーゴ伊太利公使らを交へて長時間に亘り伊ユ接近具體策につき協議を遂げた

テヘラン親善機
歸途に就く

【テヘラン十四日同盟】鵬程一萬二千餘キロを翔破し日本イラン親善の大使命を帶びて果したそよかぜ號は十五日午前九時を期しテヘランを出發歸還の途につくが、松井機長は十四日朝公使館で左の如く語つた

古へより九十九里を以て半とする譬へある如く我々は幸ひ乘組員一同意氣軒昂で使命を無事完了する樣に衷心願ふ次第である

なほ在留邦人一同は十四日夜公使館に參集し心からなるそよ風號惜別の宴を張つた

貴院の皇軍慰問團
南支班出發
振出しは廣東

【神戸十五日同盟】貴族院皇軍慰問團南支班立見鼎丸子爵保科正昭子、伊江朝助男、大塚惟精氏、田中德兵衛氏の一行は十五日正午神戸出帆の台灣航路商船高千穗丸で基隆經由廣東、海南島方面へ向つた

等は集團保障制度といふ包圍政策を執り始めた、大なる民主々義國家は平和を希望しない、戰爭は既に始つてゐる、經濟戰が始つてゐるのだ、然し戰爭は黃金のみにより勝利を得られるのではなく意志といふものが大切だ、獨伊兩國はバルチツク海から印度洋まで一億五千萬人のブロックを作つた、吾々は如何なる攻擊をも排擊し包圍政策を撃滅することを宣言する、余は此處に最大の確信を以て嚴然と宣言する、吾々のあらゆる目的は必ず達成されるであらうと

なつかしい故國の春風をのせて
四月號到着
誰方もお早くごらん下さい。
KINGキング
附錄特別讀物
讀切小說傑作選
寶話小說傑作集
この外、小說に記事に優秀なパチ切れんばかりの綜合誌、とても讀こたへがあります。
誰にも面白い 富士
新連載時代小說 伊達政宗 鷲尾雨工
大傑作讀切小說 生活の歌 長田幹彥
戰慄のスパイを語る座談會
この外、讀切傑作を讀々と綴る、十大連載小說はいよ〳〵驚嘆!! とても面白いものばかりです。
講談倶樂部
大力作三大長篇讀切
▲藤十郎 鳳 子母澤寛
▲人情鋪道 山岡莊八
▲峠の女親分 三角寛
銃後に輝く日本魂
木村名人 土肥八段 大決戰記
小說讀なら講談倶樂部、この外名小說を山と買へ!!
どうぞお早くお求めを願ひます。（當地書店一同）

賣却又はアレンダの
▼豊饒地▲
▼土質　ロツシア及び其他との混合地、卽ちバウダリヨ、セポロン、フロール・ロシア、リシエイラ等の豊饒地
▼面積　四三三アルケーレス
▼適作物　棉、アルファファ、雜穀
▼場所　區役所所在地マラカイより一キロ、アシス市より三十キロ、カルドーゾ・デ・アルメイダ驛より十キロ、バラグワス一驛より二十六キロの地
▼交通　毎日アシスへ乘合自動車八時及正午の二回バラグワスーへ朝八時半及午後五時通ふ至便の地で近日中に州耶道が耕地の近くを開通す
▼賣價格　アルケール七百ミル
▼支拂方法　入植金として三百五十ミル、殘額は年百七五ミル宛二回拂
視察の方はアシス A7-02-55 號のフォードで無料御案內致します。水質及氣候は健康上最適、附近に日本人棉作者あり
▼地主　Aureliano Siqueira
▼住所　R. José Bonifacio N.° 21 Assis, Linha Sorocabana
當耕地は地權絕對確實で又グリロ等の害虫絕無です
右賣却致しますが、御希望によりアレンダも致します
御照會は前記地主又は左記へ
アッシス市　アントニオ・草井章

第五輯
註釋付 ブラジル民法
「附」新法令集及法律語辭典 定價廿二ミル 金文字背五ミル 送料六百ミル EIZO SUZUKI C. P. 3129 - S. Paulo

●診察時間隨意（日曜日も診療に應ず）
齒科一般　大久保齒科醫院
聖市イルマン・シンプリシヤナ街五四番二階（中矢商店前）

賣住宅地
電車乘合自動車の通ずる最良住宅地長期賣出し開始、場所バイロ・デ・ビラ・マリアーナ、地權確實、御希望の御方には何時でも書類御見せ致します
御照會は
Rua João Briola, 10 - 6.° andar sala 623 ☎ 631
御照會は日本文にても可

YAMASHITA LiNE
山下汽船株式會社
極東●紐育●南米●定期航路●使用船壹萬噸型新造優秀貨物船
山里丸　往6月17日　山風丸　往7月17日　山月丸
山霧丸　山浦丸　山彦丸　復5月25日
詳細は下記弊社代理店に御問合せ下度し
貨物船に付き旅客運送は乍勝手御斷申上候
サントス市　JOHNSON LINE AGENCIES
Praça da Republica, 22 Phones. 4694 e 5107 = Santos
聖市　L. FIGUEIREDO & CIA.
Rua Libero Badaró, 92 = Phone 2-7125 = São Paulo

在サンパウロ日本病院の落成に關する御報告

在サンパウロ日本病院の建設に關しましては、畏くも御下賜金を拜受いたしそれを基本として更に現地及內地の官民有志各位より甚大な御支援を頒はしたのでありますが、就中在伯同胞諸賢より熱誠なる御援助を得たことに對しまして玆に深甚の謝意を表します

而して過ぐる天長の佳辰を卜して擧行いたしました本病院落成式に際しては、多數同胞の御臨席を得まして盛大にして誠に意義深い式を擧げることが出來ましたことは、眞に御同慶の至りであり感激に堪へない所で御座います

顧みますれば、本院の建設に就きましては、大正十三年に在ブラジル日本人同仁會が創立した當時から早くも當局者及び在留民の識者間に於て、在伯邦人の爲の病院建設の議起り越えて大正十五年には本院敷地を購入し、昭和六年に聖市日本病院建設期成同盟會、昭和八年に聖市日本病院建設準備委員會を開設し、のち昭和十一年に至りまして當地に聖市日本病院建設委員會を又本邦にはサンパウロ日本病院建設後援會を設立しまして、此の內外の兩機關が相呼應し各方面より絕大の後援を得まして本病院の建設に就て愈々その目的貫徹に向つて邁進したのであります。そして昭和十一年八月に工事に着手してから今日まで二年九ケ月間の工程を要したのでありまして、此の永い歲月に亘り幾多の難關を克服いたしまして、玆に聖市第一と稱しても決して過言でないところの優秀な病院が先づ一通り落成を見るに至つたのであります。又本病院長には伯國醫界に於て最も有力者であり學德兼備の士として名聲のあるドトール・ベネヂイト・モンテネグロ氏の就任を得ましたことは最も光榮欣快とするところで御座います

右敍の通り玆に在伯邦人社會の醫療施設として立派な本病院が建設せられたのでありますので、之を契機といたしまして此の際醫療方面の全般に亘りまして更に充分に檢討して而して今後在伯邦人社會の醫療事業が更に一層進展を見ることが出來る樣にその目的達成の爲めに一段の努力を致さなければならぬと痛感しておる次第であります

玆に內容外觀共その完備を期しました病院を建設いたしましたことは在伯邦人社會の上に於きまして正に劃期的な社會施設の創設でありますが今後本病院事業は如何なる方針で進んで行かなければならぬかに就て、此れまで種々と論議せられ或る一部に於きましては本院將來の運營に就て種々有益な意見の開陳も見たのでありますけれども社會施設として病院事業の型體並に經營方針と云ふことに就ては醫療事業の性質が何處迄も國家的にも國際的にも將又社會的にも關係ある重要なものでありますから限り所謂醫療の保護を計る意圖を加味することを必要とするのでありまして從つて本病院の經營に就きましても社團法人在ブラジル日本人同仁會が既に開設せられて在伯邦人の保健衛生事業の中樞機關となつて活動しておりますので同會に於て本病院を經營することにしその機能を充分發揮することに致し度いのであります

本病院は近くその事業の開始を期するのでありますがその組織は本邦に於て行つております病院事業の方法と又當國に於て行つております所謂ベンソン式病院の兩特長を採用してこれを適宜按配して行ふのでありますが尙ほ本病院の實施內容等に就てはこれより逐次詳細に報導しまして在伯邦人の利用の爲めに充分の連絡を計ることに致し度いのであります。依て今後若し本院に關し何等か御氣付の點もあらば遠慮なく御申越下さる樣又上聖せられた場合は「我等の日本病院」でありますところの本院を實際に御參觀を得たいのであります

以上の通り本病院は在伯邦人の生活を助長する爲の重要な使命を果す施設であります限り在伯邦人各位に於かれましても常に病院當事者との間に於て眞に親和の下に本病院の運營に就ては充分なる關心をもたれまして將來共に本院の使命が圓滑に遂行出來る樣に致し度く玆に本院落成報告と共に將來に對し一層の御協力を希望して已まないのであります

昭和十四年五月

聖市日本病院建設委員會
會長　坂根準三
在ブラジル日本人同仁會
理事長　宮腰千葉太

カマラーダの喧嘩を止めんと兇彈を浴び邦人無殘の死

▽……トレスバラス移住地の慘劇

平和な農村を血は彩る！

嘗をはじめたカマラーダを仲裁せんとした邦人が誤つて彈に當り即死した事件があつた同地アサヒランチヤ市街地在住島根縣人内藤準次郎氏（四〇）＝大工職＝は最近住事がヒマなので日頃から親しくしてゐた同地ベローバ區鈴木某氏の家に棉摘みの手傳ひに出かけたが着いた頃から雨が降り出して棉つみが出來ず家人と雜談を交はして居つた、丁度その日鈴木氏から山代り仕事を請負つた三人の伯人カマラーダが雨で仕事が出來ぬので前去る九日午後ピンガを振舞つた處、酔つ拂つて仲間喧嘩を始め、その中の一人が二人に追ひかけられ鈴木氏宅へ逃げ込んで來た、それを見た内藤氏は二人を家の中に入れまいとして酒の上から戸を押へたが一人と二人ではさゝえ切れず遂に押し破つた二人はピストルを家の中に向つて盲滅法に發射し、その時入口にゐた内藤氏は前額部と鼻に三彈を浴びてその場に昏倒無殘の死を遂げた犯人はそのまゝカフェザール地に於て酒の上から戸を押へたが一人と二人ではさゝえ切れず遂に押し破つた二人はピストルを家の中に向つて盲滅法に發射し、その時入口にゐた内藤氏は前額部と鼻に三彈を浴びてその場に昏倒無殘の死を遂げた犯人はそのまゝカフェザール地に逃げ込んだが、夜十時頃アサヒランチヤ警察へ自首目下取調べ中である

薄幸な被害者

近隣の情けにすがる遺兒

被害者内藤準次郎氏は昭和八年三月着伯パロ線フルツーナ驛サンベント耕地に入植したが同年九月妻ウメ（三三）は夫を嫌つて夫の從弟と駈落してしまつた、妻に去られた内藤氏は二人の子供をつれて淋しく暮らしてゐる、なほ同地日本人會ではこの可哀想な遺兒に同情し一日も早く背き去つた無情の母を探してやるべく各方面に紹介中である

商工組合定期總會

聖市日本人商工組合では去る六日午後七時より日本倶樂部に於て定期總會を開き昨年度事業會計報告、本年度事業の撰定方針などを決議、役員改選の結果左の諸氏當選した▽組合長蜂谷專一▽副組合長後藤武夫▽會計渡邊儀平▽理事中野巌、伊藤陽三、菅山鷲逸、杉本芳之助、梅田久吉、羽瀬作良

恐ろしい數字

兒童を蝕む寄生虫

最高は何んと百パーセント

在伯邦人の保健衛生上最も寒心に堪へざるものに十二指腸虫病がある、同仁會では腸内寄生虫特に十二指腸虫の驚くべき蔓延の狀況にあるを憂し、數年來聖市及びその附近並にアララクワラ、カタンヅーバ、リベロンプレート、アバレー、オウリンニョス、ドアルチーナの各地方の邦人兒童及び一般邦人の檢便を施行した結果は學校數七十三校、檢便兒童數二、八五六名、檢便一般邦人四三五名でその腸内寄生虫卵保有兒童數一、七三八名、その保有率六〇％八五、一般邦人一八一名、保有率四一％六一、而して腸内寄生虫卵の大多數は十二指腸虫で保有率聖市大正小學校の三一％强を最底として最高ドアルチーナ驛第二學校數七十三校、檢便兒童數二、八五六名、檢便一般邦人四三五名でその腸内寄生虫卵保有兒童數一、七三八名、その保有率六〇％に達して居る

同仁會の報告

在伯邦人の保健衛生上最も寒心に堪へざるものに十二指腸虫病がある、同仁會では腸内寄生虫特に十二指腸虫の驚くべき蔓延の狀況にあるを憂し、數年來聖市及びその附近並にアララクワラ、カタンヅーバ、リベロンプレート、アバレー、オウリンニョス、ドアルチーナの各地方の邦人兒童及び一般邦人の檢便を施行した結果は學校數七十三校、檢便兒童數二、八五六名、檢便一般邦人四三五名でその腸内寄生虫卵保有兒童數一、七三八名、その保有率六〇％八五、一般邦人一八一名、保有率四一％六一、而して腸内寄生虫卵の大多數は十二指腸虫で保有率聖市大正小學校の三一％强を最底として最高ドアルチーナ驛第二學校數七十三校、檢便兒童數二、八五六名、檢便一般邦人四三五名でその腸内寄生虫卵保有兒童數一、七三八名、その保有率六〇％に達して居る

聖西少年野球大會

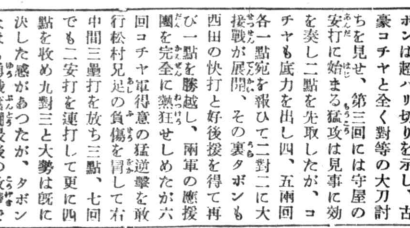
聖西少年野球大會最終日たる去る十四日は二大快戰に戰前物凄い人氣を呼び場内はファンの波で大盛況を收めた、午前十時からのタボン對バルゼン戰は戰前の豫想と完全に裏切つてタボンが快勝、勢ひをかつて古豪コチヤの牙城に迫りこゝに壯烈な攻防戰が展開、前半は全く互角に進んで勝敗は何れに惠まれるかは豫斷を許さぬことゝなり、興奮の飽波は場内外を振はしたが後半はコチヤ軍得意の猛攻を敢行してタボンがダブルヘッダーの疲れに乘じ着々攻略、遂に九對四でコチヤが大勝した

引續き閉會式を行つたが、

コチヤ輝く制覇！

果敢なりタボンの猛鬪

B組はジヤグワレー優勝す



タボン對バルゼア戰

A組優勝コチヤ小學校チーム（坂根總領事始球式）

B組優勝のジヤグワレーチームにはコチヤ産組カップが授與された

優勝戰

O000 1134……9	
T002 0101 4……4	

一日二戰の疲れもものかはタボンは超パリ切りを示し、古豪コチヤと全く對等の大刀討ちを見せ、第三回には守屋の安打に始まる猛攻は見事に効を奏し二點を先取したが、コチヤも底力を出し四、五兩回各一點宛を報ひて二對二に大接戰が展開、その裏タボンも西田の快打と好後援を得て再び一點を勝越し、兩軍の應援團も完全に熱狂せしめたが六回コチヤ軍得意の猛逆襲を敢行松村兄弟の負傷を冒して右中間三塁打を放ち三點、七回でも二安打を連打して更に四點を收め九對三と大勢は既に決した感があつたが、タボンなほも勇戰奮鬪最後の攻撃で一點を收めて見事な武者ぶりを示し有終の美を飾つた【寫眞（上）は優勝したコチヤチーム（下）は優勝したタボンのバント戰で全く決定點を奪はれ、衆望を裏切りバ軍の敗北となつた】

T010 1412……9	
Y020 0103……6	

流線型

◎…十四日の「母を偲ぶ會」に聖市母の會が招いたお婆さん連四十名は思ひもかけぬ御馳走せめに大喜びで樂しい午後を過したが、この日、日本クラブに集つたお婆さんの中一番のお年寄は七十七歳の明ヒナさん、文久元年生れです

◎…またこの日生れた女子青年會の記念寫眞を撮ることになり張り切つたムスメさん達がメーザの上にずらりと四十余人も乘つたはいゝが、お尻の重みにメーザが堪へかねてメリ〳〵ツとばかりエンコしてしまひ、氣絶した浪さんもある驚きまるでお花畑に突然暴風が襲來した樣でした

◎…飛行機乘り自慢の鈴木君、去る日曜日の午後、愛妻を乘せて空の漫歩とシヤレたまではよかつたが、急に驟つて來た雨を泥へた突風にあふられて橫轉逆轉、もうこの世の見おさめかと思はれたが、刀折れ矢盡き、墜ちた樣な姿になつて飛行場に戻つて來た

◎…聖市アマドル・ブエノ街のさる待合に時折りお客を喰へ込んで來るニツポンムスメがありましたが、着てゐる着物があまり見すぼらしいのでお斷りしましたと……その待合の女將が二三日前話して居ました―おさむい話ではありませんか

◎…聖市加藤商會で賣出してゐる「イー治療機」は現在ブラジルに五、六千臺も輸入され病魔退伏に卓効を奏してゐるが、この治療機のお陰で神經痛のなほつた勸業部の北村さん、朗らかに戰馬場近ひをしてゐます

◎…例の邦人ボクサー增田達人君は來る二十六日ジヤグアレー町でトルコ人ロドルフ（六四キロ）と試合をする事となつた

◎…大才的惡才の花田勝利昨日サンベルナルドに現はれた邦人をベテンにかけようとした處、捕へた日本人が總領事館へお處分願ひますとつき出して來た

◎…ブラ拓の棉花部長氏、何しろブラ拓のドル箱を背負つてるといふ自負と日本からの新參者が猫も杓子も持ち合せてゐる優越感？とでもいひますかナ、とても當るべからざる鼻息きでブラ拓中の事務員を片ッ端から呼付ける程の權式、棉屋獨善なんて圖は余りいゝもんじやネエそうですソ

◎…またブラ拓で恐れ入るが「紙上ビルディング」の名にそむかず掛發ばかりで一向着工しそうにないブラ拓ビルの敷地が中矢商店の建築材料の置場になつてるのは一寸皮肉ですナ、ナーニ、ブラ拓は飽くまでも長期工戰じや

◎…中央線モチ驛カツプテーラ在住の石和氏始め十三名は軍患機に百三十二ミル八百レースを獻金した

"おカアさんよ有難ふ！"

『母を偲ぶ會』

乙女達の純情美し

女子青年會も結成

聖市母の會主催の「母を偲ぶ會」と「女子青年會發會式」は去る十四日午後一時から日本クラブで盛大に擧行された午後一時まづ女子青年會發會式に入り、加藤さんの挨拶、岡田夫人の後援の辭、野村文敎會事務長の挨拶などあり、愈よ會の命名の議に入つたが結局白菊はどこまでも純白でしかも霜に强くすく〳〵と伸びるその端麗さを賞でることゝして會の名を「白菊會」と命名、續いて役員選擧の件を審議したが、後日各團體から推薦選出することゝとし會費なども格安の一ミルで廣く一般の閉會、引續き母を偲ぶ會を催した。

五十歳以上の高齢婦人の頑丈餘も並び、岡田夫人の挨拶、野村副領事の母の愛の記念撮影も終つて女子青年會員の優しい接待をうけつゝ餘興を見物、お土産までもらつて老人たち大喜びで午后六時散會した

（寫眞は女子青年團發會式に集つたムスメさん達）

育英生決る

選ばれた三十四名

今後も毎年引續き採用して行くつもりだ

ブラジル語の成績を主としてそれに日本語の學力を加へたもので、殊に本人の體格、性格、保護者の境遇、將來の志望等を考慮した、いままでは育英生といへば生活の豊かでない家庭から採用してゐたが今後は「育英」といふ意味から幾分資力のある者の子弟も採用した、また育英生については從來兎角の世評があつたが、今回の採用標準について教育會では左の如く語る

▲サンパウロ支部植田成輝、大室百合子、寺本八千代、牛越悅香、杉田登貴夫、澁野鎭雄、唐澤千惠子、吉本政弘、井上忠志吉良功、黒石靖子

▲パウルー支部尾山重良、三坂リヨコ、多賀知則

▲ノロエステ支部安藤勇、堀木要、井上敏子鈴木龍雄、上野千里、山口彰、田中伸子、重本武、灰田巧、梶本賢治、藤木孝直清幸、盛すみ江新垣稲明、中野秀巳、當間

▲ソロカバナ支部嘉陽宗英、小木曽敬子、儀武進、高橋勳、出山茂樹

戀の火遊びに醉ふ

妻子ある男と無軌道人妻

バストス移住地在住小川勝一（假名）妻女艶子（四二）は昨年四月頃より果物店を讓り受けて營業してゐたが、年增美人に店は大繁昌してゐるうち、日頃から鬼角評判になつてゐた隣家の自動車屋後田米藏（四七）と情を通ずるに至り世間の噂をよそに後田は朝から晩まで入り浸り、また艶子も押しかけて行く有樣に前田の妻女ボンベイア、ルテシアなどへの乘合自動車がひつきりなしに通ひ活氣を呈してゐるが、植民地の中心には一寸した町の體裁を形作つて來た、ところが同植民地より隣接の文化植民地には遠らしい道もなく在住者は豫々不便を感じてゐたがこの度立派な新道を開設する天長の佳節に開通式を行つた

拓け行く植民地

リベロンプレート

グランデ

ソロ線パラグアスー驛リベロン・グランデ植民地は今ではパラグアスーよりもリヤ、ボンベイア、ルテシアなどへ

一方小川氏も妻の不倫を度々忠告したが、たゞれた戀の火遊びに醉ふ二人は相變らず無規道振りを發揮してゐると

流行後戰線

マリリア驛第一メスキツタ植民地は在植者九十家族、棉の作柄も極めて上々、健實な發展の途上にあるが、八十名の小學生は先月二日用に宜る棉摘み作業の汗の結晶たる二百ミルを國防獻金として差し出して父兄たちを感動せしめた

又去る九日は兒童展覽會開催して運動會を催して附近伯人も招待して大いに日伯親善の實を擧げた

△…パウルー青年會では軍患機獻納基金第二回分募集に猛進してゐたが、去る九日郡内のものと一纏めにして金九百八十ミルを銃後青年會宛送金した

△…聖市セレジ街に住む李重太さんは銀紙一キロを献納、この半島人の勤勞に係員を感激させた

△…バストス移住地中央區本田三四七氏（六三）は銀紙二キロ半を献納した

東山銀行

聖市 古澤齒科 ビエイロ街一二三番地（電話二三二三）

伯茶 八六、七〇〇 七、二四〇
伯米 一八、九七〇 一六、五〇〇
伯日 五、一七〇 ――

為替（聖市十五日）
自由 公定

貸家
交通局へ歩いて五分の地にある家、大家族、ベンソン、工場又は事務所として最適
御照會は左記へ
Largo Riachuelo, 86 sob.

募集
コロノ數家族
歩合作
右好條件にて募集す
絶好の健康地として名高い當植民地は御承知の通り地味肥沃なれば諸野菜作りに好適
聖市近郊にして總てに至便なり
御希望者は左記へ
セントラル線イタケーラ驛
イタケーラ植民地
重田義一

急募
外交員二名
意志强固にして努力家を優遇す
收入は定給と歩合
詳細は面談の上
サンベント街三十九番二階

賣家屋、土地
キタング盛業中
歸國に付至急讓りたし（格安にて）
場所 モインニョベーリヨ（サコマン）
タバチンゲーラ街十番
浪花旅館方
電話二一〇五〇九

尋人
廣島市寶町四〇三番地
白倉一郎
右の者に對する賞賜物件當館に到着したるに付本人又は同人父白倉松二郎右受領の爲め當館に御出頭相成度し
昭和十四年五月六日
在サンパウロ
帝國總領事館

尋人
左記者の現住所承知致度に付本人又は御存知の向は當館迄御一報相煩度
記
本籍地（不明）山本秀三郎
岩手縣東磐井郡大津村千葉幸治郎
宮城縣登米郡米谷町菅原幸三郎
熊本縣下益城郡河江村吉田政市
熊本縣八代郡高田村清水武雄
熊本縣大野辰人
高知縣高岡郡上ノ加江町佐竹南海男
石川縣石川郡釜石村丸木次作
熊本縣八代郡鹿島村井上正義
東京市淀橋野川區西ケ原關德太郎
鹿島縣白河郡白河町渡邊義敬
在サンパウロ
帝國總領事館

NIPPAK SHIMBUN

Diario Nipponico de maior circulação no Brasil

Anno XXV — São Paulo — 3.a feira, 16 de Maio de 1939 — Num. 1.706

NIPPAK SHIMBUN

PROPRIETARIO
SACK MIURA

DIRECTOR: Masaaki Udihara — GERENTE: Alfredo Takeuchi

Redacção — Administração e Officinas
Rua Maestro Cardim, 1109
Telephones: 7-3325 e 7-3326
Caixa Postal, 375
Endereço Telegraphico: "Nippak"
SUCCURSAL:
Rua Conde de Pinhal, 154
Telephone 2-3926
SÃO PAULO — Brasil

Assignaturas

PARA O BRASIL
Por anno ..... 60$000
Por semestre ..... 30$000

PARA O EXTERIOR
Por anno ..... 120$000

Annuncios

Temos á disposição dos interessados uma tabella completa de preços para annuncios nesta folha

As oppressões do governo de Stalin

Declarações de um soldado russo

Harpin, 9 (Domei) — O sr. Ivorencoff, que fugindo das oppressões barbaras do governo sovietico, veiu para esta cidade, concedeu no dia 9 uma entrevista collectiva, e durante a qual declarou o seguinte:

"Sou natural de Kiew e ha dois annos fui recrutado e enviado para o Extremo Oriente — No quartel, fiquei conhecendo a liberdade e progresso, e estive procurando sempre uma occasião propicia para fuga. E, numa noite de março, quando vigiava as fronteiras como sentinella nas margens do rio Sungar, atravessei este rio congelado e consegui refugiar-me.

Somente, quando cheguei aqui, é que fiquei conhecendo que o nosso commandante general Lushgkow, tambem tinha vindo para cá.

Quanto a fuga do general Blucher, nada sabia.

O povo em geral, opprimido pela errada directriz do dictador Stalin, acha-se na mais completa miseria.

A aspiração geral, porem é a guerra com o estrangeiro não para se expandir mas para destruir o tyranico regimen bolchevista."

O quadrimotor allemão «Hans Loeb» na Mandchuria

A significativa recepção

Tokio, 12 (Domei) — Hoje ainda bem cedo, o Conde Gablenz e a sua comitiva deixou o Hotel Imperial dirigindo-se para o aerodromo de Haneda afim de examinar o seu apparelho "Hans Loeb" que realizou o vôo de cordialidade Berlim-Tokio. A's 6 horas approximadamente, já uma grande multidão invadia o principal campo de aviação da capital imperial, notando-se entre os presentes s. ex. o embaixador da Allemanha, o sr. Fujiwara, chefe do departamento de aviação, o major Yasumura e um grande numero de allemães residentes em Tokio. Logo ao terminar o exame do apparelho, foi improvisada, no aerodromo, uma significativa festa de despedida, tendo na occasião, a senhorita Miyoko Matsudaira, entregue um ramalhete de flores ao conde Gablenz em nome do povo japonez. Entre vivas á Allemanha e ao Japão, o apparelho levantou vôo.

No apparelho seguiram além dos membros da comitiva, o addido militar da Allemanha junto ao governo japonez, um jornalista, um director de importante companhia allemã e o gerente da mesma. Esses quatro ultimos farão uma viagem de passeio até Mandchuria. Ainda no mesmo "Hans Loeb" seguiu para Allemanha um technico da Liga da Industria de Aviação.

Shinking, 12 (Domei) — O apparelho allemão que sob a direcção do conde Gablenz realizou o raide de cordialidade teuto-nipponica e que hoje cedo deixou o aerodromo de Haneda para dirigir-se á Mandchuria em visita de amizade, foi obrigado a uma aterrisagem forçada, causada por escassez de combustivel. Assim ás 12,40 hs. o gigantesco quadrimotor descia no aerodromo de Seichin, na Corea, onde após abastecer-se de combustivel levantou vôo ás 13,10 hs. com destino a Shinking.

A's 15,20 hs. o "Hans Loeb" aterrisava victoriosamente na capital do Mandchukuo. Foi precisamente ás 15,19 hs. que o avião do paiz amigo, acompanhado do "Togo" que o acompanhára surgiu nos ceus de Shinking, capital da Mandchuria. Nessa occasião, já um avião mandchú levantava vôo para dar as bôas vindas aos visitantes. Após algumas voltas no lindo ceu de Shinking, os tres apparelhos desceram ante ás acclamações de uma grande multidão composta de pessoas do governo, militares e civis em geral. Após os cumprimentos protocollares foi improvisada no mesmo local uma festiva recepção, tendo na occasião o conde Gablenz recebido um ramalhete de flores da filha do sr. ministro das Communicações.

Os componentes da comitiva receberam tambem do governo mandchú um significativo presente. Nesta occasião, usou da palavra o snr. Kodama, ministro dos Negocios Estrangeiros do governo mandchú saudando os visitantes. Respondendo á saudação o conde Gablenz pronunciou um vibrante e significativo discurso salientando a importancia do eixo que os liga, o pacto anti-Komintern e agradecendo sinceramente a grande demonstração de sympathia do povo e governo mandchú. Terminada a sessão, os visitantes dirigiram-se para o Yamato Hotel.

Movimento do commercio exterior nos dez primeiros dias do corrente mez

Tokio, 10 (Domei) — Segundo os dados fornecidos pelo ministerio da Fazenda, o commercio Exterior do Nippon apresentou o seguinte movimento na primeira dezena do corrente mez:

Importação: 111.778.000 yens.
Exportação: 104.970.000 yens.
Saldo a favor da Importação 6.808.000 yens.

«Olhae os lyrios do campo»...

Ha livros que enthusiasmam os leitores.

Estes não podem deixar de falar sobre o que leram, o assumpto, as personagens, o estylo, os sentimentos contidos no livro. "Olhae os lyrios do campo", de Erico Verissimo, pertence a essa categoria de obras literarias que ficam não só no cerebro da gente, mas até no coração.

E para recommendar, aos meus casuaes leitores, a leitura de um romance tão interessante, escripto por um joven autor brasileiro, vou transcrever aqui algumas linhas, colhidas ao acaso:

*

"Eram olhos para os quaes ao cabo de algumas reflexões Eugenio só achou um qualificativo: humanos. Envolviam mornamente a pessoa ou objecto em que se fixavam, davam uma idéa de profundidade insondavel e principalmente de comprehensão". (Pag. 67).

*

"Sua voz não era rica de inflexões musicaes, não se coloria de falsas doçuras. Era, antes, quasi monocordia, grave e tranquilla; tinha, como os olhos, uma quente qualidade humana" (idem).

*

"E quando lado a lado desceram as escadas devagar elle sentiu como nunca que estava perto de um sêr humano, de alguem que *era*, que *existia*, de maneira profunda, integral, que não constituia apenas uma somma de vaidades, de attitudes, de desejos de parecer". (Pag. 70).

*

"O ideal, meu querido, seria um mundo em que cigarras e formigas vivessem em harmonia intelligente". (Pag. 198).

*

"O mundo seria insupportavel se as creaturas tivessem bôa memoria". (Pag. 286).

*

"—Que bicho curioso é o homem... Vaidoso, vingativo, intolerante, leviano e principalmente fraco de memoria. Esquece tudo, menos as coisas relacionadas com a barriga, com o sexo e com a vaidade". (Pag. 292).

*

"Considerae os lyrios do campo. Elles não fiam, nem tecem e no entanto nem Salomão em toda a sua gloria se cobriu com um delles".

*

Pela transcripção—JYR.

Cartas do Extremo Oriente

Será possivel um bloqueio completo contra o Nippon?

Na nova definição, o territorio nipponico constitue uma fonte inesgotavel de recursos

(Do nosso enviado especial)

15

Recentemente, o governo francez está exigindo certificados de origem a todos os artigos nipponicos que se destinem tanto á França como a Indo-China franceza e ás suas possessões africanas. Não sabemos exactamente o intuito francez e nem nos interessa indagal-o, eis que, como acima ficou exposto, o proprio bloqueio economico não nos causa medo. Interessante é, porém, notar que dessa regra estão isentas as sedas e as porcellanas. O motivo dessa excepção é evidente. E' o interesse de uma grande classe em jogo, que precisa ser defendida pelos poderes publicos, se a França não deseja vel-a morrer de fome e clamar contra a injustiça governamental. Todo o resto é pouco mais ou menos, igual abarcando esta theoria todas as potencias.

Como vae ser...

Pelos expostos, conclue-se com facilidade a impossibilidade de applicar-nos uma sanção tal—bloqueio economico—que só pode servir de reacção contra as eventuaes potencias sanccionadoras. As razões desse impedimento, umas de caracter permanente e outras transitorias, e umas mais fortes e outras frageis, caminham sempre para os lados mais energicos, de modo a evitar a consummação de tal brutalidade. O Nippon teve opportunidade de declarar, pelos seus orgãos competentes, que está fartamente preparado para enfrentar qualquer situação que a surpreza de taes acontecimentos possa impor. Contra eventuaes inimigos da justiça internacional, da paz, da ordem e do bem estar da humanidade, só ha a espada-alma da nacionalidade.

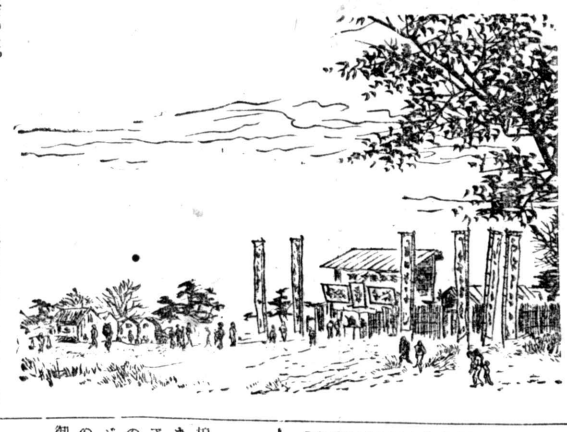
A conflagração mundial de 1914/18 provou que, victima do bloqueio economico posto em execução pelos alliados, a Allemanha descobriu novas fontes da industria chimica.

O nosso plano quadriennal visa o auto-abastecimento de 15 principaes productos em territorio nipponico, fortemente apoiado pelo Mandchukuo e a China dos novos regimens.

Umas doses de oppressão economica contra nós só servirão de motivos para novos planos conjunctos.

E dou um tostão para quem provar com prova provadamente provada que o falado bloqueio economico anti-nipponico é viavel...

(*Fim*)



血汐曼陀羅

(映画化)

橋爪彦七 (講上演)

木俣茂彌 (脚色)

【117】

妖花抄（一）

一方。

向島の寮を焼け出された稲垣の後室——美貌の萩江はどうしたらう？

あの夜——

俄に起つた春の怪火が、今の世に稀な代せ火の仕掛とあかつて、火附の詮議が厳しく、なると共に、萩江の身邊にも明方や寺社方の鋭い目が光り出した。

そして。

ある日のこと——

資御番頭稲垣播磨守が役部屋で若年寄の某から囁かれたのは、後室の萩江の親戚、この儘でゆくならば、或は、家門にかゝはりはせぬかとの注意だつた。

かねてから、嫂の萩江に不満だつた播磨守が、烈火のやうに怒つて萩江を放逐同様にして、今後屋敷では様ひつけぬ！と言明してしまつた。

勿論里方の横田の家が、翌日を及ばすのを恐れて、萩江が来たらば出入り止め——さう相談を一決して待つてゐたが、豫期に反して、いつまで経つても、萩江は姿を見せなかつた。

そればかりでなく、烈しい怒りの燃えてゐる稲垣の屋敷へも顔を出さず、火事の夜を境として、ふつと姿を隠してしまつてゐた。

聰明で、妖艶で、しかも鋭い感情に生き、冒険を好み奇道を歩みたがる性——

女、三十歳の晩年を、誰に聟討され、誰に、壓迫を受けるのだ！

めんどうくさい。

後室などといふ蕾は、急いで脱いでしまへ——

一方。

彼女は、むつちりと張りきつてゐる肢体を愛撫し、滑らかな皮膚に鞭打つて、自由の天地に跳躍をしようといふのだ。

あの放恣な——生活だつたあの世に稀な代せ火の仕掛とあかつて、火附の詮議が厳しく、なると共に、萩江の身邊にも明方や寺社方の鋭い目が光り出した。

そして。

ある日のこと——

資御番頭稲垣播磨守が役部屋で若年寄の某から囁かれたのは、後室の萩江の親戚、この儘でゆくならば、或は、家門にかゝはりはせぬかとの注意だつた。

かねてから、嫂の萩江に不満だつた播磨守が、烈火のやうに怒つて萩江を放逐同様にして、今後屋敷では様ひつけぬ！と言明してしまつた。

勿論里方の横田の家が、翌日を及ばすのを恐れて、萩江が来たらば出入り止め——さう相談を一決して待つてゐたが、豫期に反して、いつまで経つても、萩江は姿を見せなかつた。

そればかりでなく、烈しい怒りの燃えてゐる稲垣の屋敷へも顔を出さず、火事の夜を境として、ふつと姿を隠してしまつてゐた。

聰明で、妖艶で、しかも鋭い感情に生き、冒険を好み奇道を歩みたがる性——

女、三十歳の晩年を、誰に聟討され、誰に、壓迫を受けるのだ！

めんどうくさい。

後室などといふ蕾は、急いで脱いでしまへ——